ずばっと！

地域創生講演会

平成29年
12月12日（火）
豊北高校

豊北〇〇ing

生徒意見発表～今が創る未来～

地域連携・地域貢献活動の展開

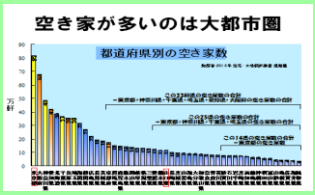
高校生の元気な姿を地域に届けましょう！

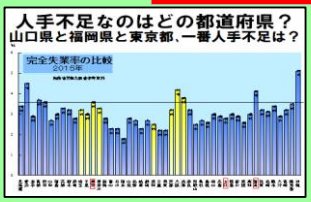
豊北地区まちづくり協議会ワークショップ
ないものねだりよりあるもの探し

藻谷浩介さん講演会

ふるさとを守るために、今、私たちができること
～今、日本で、山口県で、下関で起こっていること。
これから何が起こり、私たちはどう生きればよいのか。

「イメージ」や「空気」ではなく、事実を数字で確認





? 交通が便利になることだ。
? 工場や職場が増えることだ。
? もっと好景気になることだ。
? 人口が減らなくなることだ。

交通が便利になって、工場が増えて、好景気になれば、人口は減らなくなると、あなたは今なお本気で信じていますか？

? これ以上交通を便利にするよりも
? これ以上職場を増やそうとするよりも
? 好景気・不景気と騒ぐのでもなく
○ 人口が減らなくなること。
◎ 若者が戻ってきて、子供が生まれ続けること。
○ 誇りを持って地域を残すこと。

地域活性化って何ですか？

長いトンネルの出口に立つ“豊北町”

高齢者の増加が止まった所から子供は増え出す。
再生は田舎から始まる。
豊北町の未来も、今

首都圏 → 豊浦町 → 下関市 → 豊北町 → 阿武町

首都圏一都三県でいま起きていること

2010→2015年、国勢調査（年齢未回答分を補正）、居住外国人含む

総人口：2010.10.1→2015.10.1 +51.2万人
全国で一番人口増加数が多く、伸び率はともかく数では首都圏の一人勝ち
この参事紙だけ5年ごとで区役所ゼロ！にならべース☆、予定行らの減少

	絶対数	増減
0-14歳人口の増減：2010年 4.5百万人→15年 4.4百万人	△7.0万人	△2%
15-64歳人口の増減：2010年 23.8百万人→15年 23.1百万人	△75.4万人	△3%
65歳以上の人口：2010年 7.3百万人→15年 8.7百万人	+133.6万人	+18%
↑その中の75歳以上の人口：2010年 3.2百万人→15年 3.9百万人	+76.0万人	+24%

（旧）豊浦町でいま起きていること

2010→2015年、国勢調査（年齢未回答分を補正）、居住外国人含む

総人口：2010.10.1→2015.10.1 △1,070人
この参事紙だけ30年ごとで区役所ゼロ！にならべース☆、見通し減少
この参事紙だけ50年ごとで区役所ゼロ！にならべース☆、見通し減少

	絶対数	増減
0-14歳人口の増減：2010年 1,960人→15年 1,750人	△210人	△11%
15-64歳人口の増減：2010年 10,490人→15年 8,900人	△1,590人	△15%
65歳以上の人口：2010年 6,250人→15年 6,980人	+730人	+12%
↑その中の75歳以上の人口：2010年 3,250人→15年 3,560人	+310人	+9%

（旧）下関市でいま起きていること

2010→2015年、国勢調査（年齢未回答分を補正）、居住外国人含む

総人口：2010.10.1→2015.10.1 △8,880人
この参事紙だけ30年ごとで区役所ゼロ！にならべース☆、統廃合が減少
この参事紙だけ50年ごとで区役所ゼロ！にならべース☆、見通し減少
この参事紙だけ30年ごとで区役所ゼロ！にならべース☆、見通し減少

	絶対数	増減
0-14歳人口の増減：2010年 2.9万人→15年 2.7万人	△2,030人	△7%
15-64歳人口の増減：2010年 14.2万人→15年 12.8万人	△13,420人	△9%
65歳以上の人口：2010年 6.5万人→15年 7.2万人	+6,570人	+10%
↑その中の75歳以上の人口：2010年 3.3万人→15年 3.6万人	+2,820人	+8%

お待たせ！（旧）豊北町でいま起きていること

2010→2015年、国勢調査（年齢未回答分を補正）、居住外国人含む

総人口：2010.10.1→2015.10.1 △1,360人
この参事紙だけ40年ごとで人口ゼロ！にならべース☆、とても深刻な減少
この参事紙だけ30年ごとで区役所ゼロ！にならべース☆、見通し減少
この参事紙だけ20年ごとで区役所ゼロ！にならべース☆、見通し減少

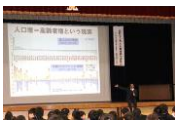
	絶対数	増減
0-14歳人口の増減：2010年 790人→2015年 590人	△200人	△25%
15-64歳人口の増減：2010年 5,290人→2015年 4,060人	△1,230人	△23%
65歳以上の人口：2010年 4,530人→2015年 4,600人	+70人	+1%
↑その中の75歳以上の人口：2010年 2,550人→2015年 2,490人	△60人	△2%

萩の東の阿武町でいま起きていること

2010→2015年、国勢調査（年齢未回答分を補正）、居住外国人含む

総人口：2010.10.1→2015.10.1 △280人
この参事紙だけ40年ごとで区役所ゼロ！にならべース☆、見通し減少
この参事紙だけ10年ごとで区役所ゼロ！にならべース☆、統廃町で出すとの数が増えている！
※平成の合併代の増えたが、中学・高校等業種に表れるも１１０人が減少してマイナスに

	絶対数	増減
0-14歳人口の増減：2010年 305人→2015年 305人	+1人	+0%
15-64歳人口の増減：2010年 1,791人→2015年 1,550人	△241人	△13%
65歳以上の人口：2010年 1,648人→2015年 1,608人	△40人	△2%
↑その中の75歳以上の人口：2010年 1,028人→2015年 972人	△56人	△5%



世界で最初にトンネルを抜ける日本の未来

× 人口減少で日本の国力は低下し、三等国に転落する
○ 欧米先進国では軒並み、日本よりも高齢者が増加
○ アジアや米国を、現役減・高齢者激増が襲う
○ 日本では世界に先駆けて高齢者の増加が止まる
○ 高齢者の増加が止まった地域から子どもの数が増え出す
× 労働者が減って輸出産業が衰退し、日本の国際収支は赤字になる
○ 機械化で競争力は上昇、賃上げで内需も守れる
○ 人口減少で食糧とエネルギーの自給率は年々上がる
× 納税者が減り、医療福祉負担が増えて、財政が破綻する
○ 1千兆円の貯金が相続でいずれ高齢者から若者に回る
○ 世界一元気な日本の高齢者は医療費も低い

里山資本主義・高齢化の大逆転

× 20世紀：高齢化する田舎／若々しい大都市
○ 21世紀：高齢者が減る田舎／激増する大都市
→ 大都市では今後高齢者が激増／田舎ではむしろ減りだす
→ 田舎は、今の医療介護体制を維持できれば何とかなるが、大都市ではいつまでも医療介護の体制整備が追いつかない
→ 先に高齢化した田舎で成り立つ企業が、全国で生き残る
→ 人口が少ない方が食料自給率や自然エネルギー自給率を高く保つことができ、長持ちする社会ができる
→ 結局生き残るのは子供が生まれる地域／都会の子育てを容易にするより、子育ての容易な田舎に若者を戻す方が早い

ただし問題は、惰性のように続く若者の流出を止められるか、雇用創出よりも、耕作放棄地と空家の賃貸促進による、若者受け入れがカギ。

止められないこと・できること

× 止められないこと
→ 今の住民が毎年1歳ずつ歳を取っていくこと
→（多くの）若者が地域外に就職して出て行くこと
△ 変えられること
→ これまでは一度出て行ったきり帰ってこなかった若者たちを、今後は工夫次第で呼び戻せる
→ 子育て世代の支援で、出生率を高くできる
○ むしろ前向きにできること
→ 子育てしながら働く若い世代を呼び込める
→ 無病息災で天寿を全うする高齢者を増やせる
→ 来訪・滞在・短期定住する外来者を増やせる

生徒の感想（１年女子）

今、私たち北高生が自然に行っていることは、地域の活性化につながると思う。4月からは、下関北高校生として入学する後輩に伝えたい。しかし、それだけでは、地域の活性化をやりとげることはできない。高校生だからできることが必ずある。できないことやないものを探すのではなく、あるものやできることを最大限に生かし、行動に移すことが大切だ。

お年寄りが減り始め、次の段階に進みやすい豊北町に残してもらった豊北高校という地域の誇りを改めて感じることができた。

田舎に住み、高校に通う私は、自分の考えが間違っていることに気がつかなかった。しかし、今、この瞬間にも私たちにできることはある。未来と再生の可能性に満ちあふれた田舎を残さなければならない。

９回裏まである人生の中で、高校生というときに本当の日本の問題に気づけてよかった。その人生の中で、もう一度思い出すことができたとき、今回の講演会の話が現実になっているかもしれない。田舎が都会よりも前を歩まなければ、日本はなくなってしまうことに気づけてよかった。

若者が戻らない地域の共通点

× 「無い物探し」と「悪者探し」が日課
× 親が子供に「この町はダメだ」と言う
× 地元民が地酒・地魚・地野菜を食べない
× いくら頼まれても空き家を貸さない
× 議員は全員、無投票当選の高齢男性
× 役場の職員や首長が勉強会に来ない
× 自分の子供は都会に出しておきながら、都会から移住してきた若者の悪口を言う
× 「何もない」と「当たり前」が口癖

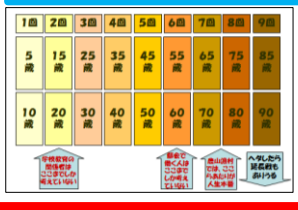
若者が戻る地域の共通点

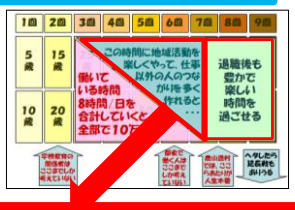
× 「うちには何もない」
× 「そんなのここでは当たり前」は、謙遜ところか割当たり。
「何かある『当たり前ではない』からこそ、先祖がここを選んだのに…
「当たり前」ではなく「有難い」が口癖の地域だけが残る。
× 何が有難いのか、傲慢を捨て、よそ者の目で学べ！
× 「何もない」と「当たり前」が口癖

若者が戻る地域の共通点

残る町は
「住む理由」を言える町！
人口が年々減少していく時代、人が住たくなく住む町に未来はない。
→住む人が堂々と「住む理由」を説明できる町だけが残る
なぜここを選び、暮らすのか
住んでいる人の「住む理由」を良いものにして行こう
× 「何もない」と「当たり前」が口癖

人生は9回裏まである！





生徒の感想（一言感想）

○ないもの探しよりあるもの探しで、地元にしかない魅力を探していきたい。空家に若い人を呼んだり、畑などがたくさんあるから、仕事に困らなかったり、短所を長所に変えるのが大切。一番は、地元を大切にするという気持ち。都会に出るより、地元で働きたいと強く思った。

○これから私たちがしなければならないことは、何が本当に重要な問題で、どう取り組むかを真剣に考えて行動すること。そのためにも、今は知識を増やして経験を積むこと。自分の住んでいる地域に誇りをもつこと。社会全体の問題を自分たちの未来に関わることとして少しでも意識していけたら良いと思った。

○角島などの目に見えるものだけでなく、地域の方々との交流、信頼関係など、目に見えない所も豊北町の誇れることの一つ。町をずっと残したいという強い思いがあるなら、地域の活性化も夢ではない。

○兄も都会に行きたいと思っており、大学卒業後に東京に行くと言っていた。いつか、今日の講演について、僕が知っていることを全て話して、いつでも戻ってこられる場所を大切にして欲しいと話したい。

ふるさとの自然や人とふれあう経験が、若者を呼び戻し、９回裏の人生を豊かにする。
だからここに新しい高校ができ、この豊北高校・下関北高校には、それができるカリキュラムがあると思います。（藻谷さん）